

赤門の寺 法蔵寺 寺報

# 法蔵

ほ う ぞ う

【Houzou】

令和5年お盆号  
発行責任者 宏真 譽量 29世 法蔵寺  
電話 0288-21-8220  
開創 635年

## 住職法話

### これからのお寺・・・その役割

前回の寺報正月号でお伝えしましたが、法蔵寺で『漢方薬局』を始めました。

「お寺の役割（役目）」というと、皆様のご先祖様を「祀り護る」という大きな使命があります。しかし仏教は、「皆さんを救うこと」を目的とした宗教です。何かと辛いことの多い人生を、少しでも安らぎと笑顔あふれるものにするのがお寺の役割とも言えます。では今できることは何だ

ろうと考えたとき、住職は薬剤師で病院や薬局に勤めていたので、その経験を生かして、ご縁の皆様の「健康増進」のお手伝いができるのではないかと思いつきました。

\*\*\*\*\*

急性の病気は病院のお薬が得意ですが、漢方薬は慢性的の病気が得意。さらに生活の中にある原因を会話の中から見つけて改善してもらうことで健康になるというのも漢方の特徴です。会

話をするとお互いの絆が深まるだけでなく、普段抱えていた悩みがはつきりするなどいいことがあります。まさに心身ともに健康に近づくことでしよう。相談は もちろん無料です。お気軽にお話に来てください。



「お寺は元気なうちにお参りするものだ」かつて言われていた言葉です。それが今は「お寺は法事と葬儀の時にしか用がない」と言われることさえあります。嘆かわしいことです。

\*\*\*\*\*

法蔵寺では、多くの皆様に仏教を体験してもらおうように、「写経」「写仏」「念仏・瞑想」をいつでも受け付けています。お一人でも団体

でも歓迎です。現在は観光客の方が多いのですが、檀信徒はじめご縁の方々にもぜひおすすすめします。

また「雅楽（ががく）」という和音楽を気軽に習えるように会員を募っています。さらに本年六月からは、「墓近年問題」への対策、法蔵寺や仏教そのものにご縁のなかつた方々へ門戸を広げるために、『樹木葬』を境内に造成しました。

地域にある、

誰でも声をかけやすい寺。

そんな本来の役割をこれから果たしてい

ければと思っ

ています。どうぞお気軽にお声がけください。そしてお寺を近しく思っていたければ幸いです。合掌

